

平成28年度

静岡市ものづくり産業振興基本計画
に関する実施状況の報告について

経済局商工部 産業振興課

*** 目 次 ***

平成28年度静岡市ものづくり産業振興基本計画の実施状況等について	1
1 経緯	1
2 基本計画の概要	1
3 実施状況等	2
(1) 8つの重点項目の実施状況	3
(2) 方針毎の実施状況	4
①方針1 企業の誘致と留置の推進	4
②方針2 新市場・販路開拓に対する支援（異業種交流支援を含む）	5
③方針3 新製品・技術開発等に対する支援	7
④方針4 中小企業の経営基盤・競争力の強化	8
⑤方針5 次代を担う多様な人材の育成	10
(3) 実施状況の総括	11
4 各事業の成果目標及び事業実績一覧表	15
5 各事業の進捗管理票	20

平成28年度静岡市ものづくり産業振興基本計画の実施状況等について

静岡市ものづくり産業振興基本計画（以下「基本計画」という。）の実施状況については、静岡市ものづくり産業振興条例（以下「条例」という。）第8条第7項の規定に基づき、次に掲げる事項により報告いたします。

1 経 緯

基本計画については、平成23年3月、本市のものづくり産業の振興に向けた議員提案をもとに制定された条例を根拠とし、同条第18条に規定する静岡市ものづくり産業振興審議会（以下「審議会」という。）及び関係機関との連携を図りながら、基本計画の策定に向けて取り組んできました。具体的には、平成23年9月に審議会へ基本計画策定案の検討を諮問し、その後、パブリックコメントなどを経て、平成24年7月に「多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡」を計画目標とする基本計画を市長の定例記者会見において、公表・施行し、計画目標の達成に向けて取り組んでまいりました。その後の取り組みとしては、平成27年度以降も継続的にものづくり産業の振興を推進するために、第3次総合計画及び第2次産業振興プランとの整合性を図りながら、第2次基本計画を策定したところであります。

2 基本計画の概要

基本計画については、条例に掲げる趣旨の具現化に向けたプロセスであることから、計画目標を支える5つの方針に基づいて、全21の事業を設けるとともに、第2次基本計画より新たに8つの項目を重点項目として設定し、体系化を図ったものであります。

根 拠 法 令	静岡市ものづくり産業振興条例第8条第1項（基本計画の策定等）
計 画 期 間	平成27～30年度（4か年度）
策 定 目 的	本市ものづくり産業の総合的かつ計画的な振興を図るため
計 画 構 成 等	(1) 計画目標 多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡 (2) 重点項目 ①緑地率の緩和 ②大手製造企業の傘下企業に対する支援の検討 ③中小製造事業者等を取り巻く規制事項の洗い出しと緩和の検討 ④本市の誇るべき中小製造事業者等の表彰 ⑤産業振興プラットフォームの考え方に基づく中小製造事業者支援 ⑥国や県等の補助制度の情報提供と活用モデルの提案 ⑦展示販売会等の開催による販路拡大に向けた支援 ⑧ものづくり関連の民間活動団体への支援 (3) 方 針 方針1 … 企業の誘致と留置の推進

	方針2 … 新市場・販路開拓に対する支援 方針3 … 新製品・技術開発等に対する支援 方針4 … 中小企業の経営基盤・競争力の強化 方針5 … 次代を担う多様な人材の育成 (4) 事業 各事業の成果目標及び事業実績一覧表のとおり
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

基本計画の実施主体については、計画目標の達成に向けた事業を実施する担当課として、経済局商工部3課（産業政策課、産業振興課、商業労政課）が基本計画の推進に取り組んでいます。

事業担当課では、方針や施策を踏まえるとともに、計画目標を達成するための成果目標のもとで、効率的かつ効果的な事業運営を推進してきたところであります。

3 実施状況等

基本計画については、前項のとおり、計画目標の達成に向けて、体系化が図られたものであるため、その実施状況にあたっては、一事業の進捗状況を注視するだけでなく、計画目標を実現させるために掲げた方針の進捗状況を捉えることで、計画全般を総合的に把握する必要があります。そのため、今回の報告では、図1のとおり、計画目標の大項目である8つの重点項目と5つの方針を基本的な枠組みと捉えるとともに、5つの方針の中に位置付けられた各事業（一定の事業内に掲載されたポイントを含めると全43項目）に関する実施状況をもとに、方針毎の実施状況を把握しています。その後、それぞれの方針に関する実施状況を総合的に判断した結果をもとに、基本計画全体の実施状況を包括的に評価しています。

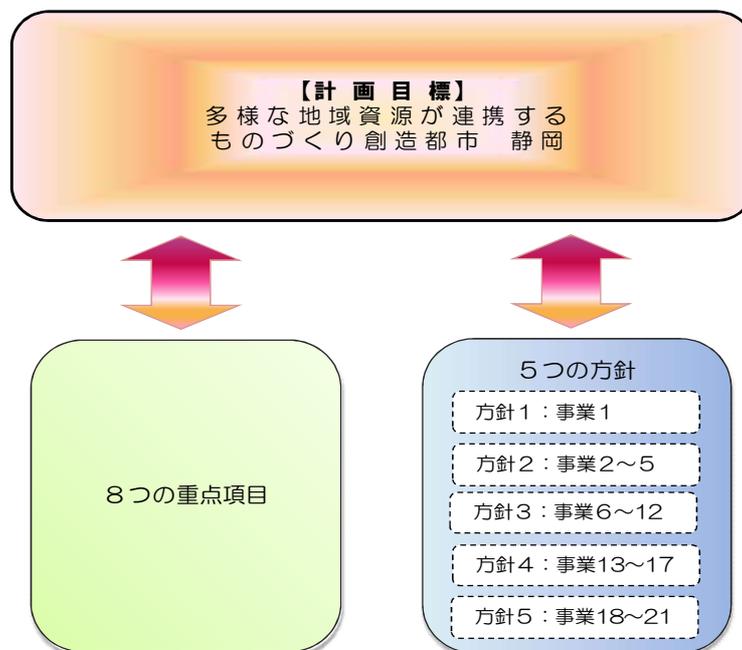


図1 基本計画体系図

各重点項目及び方針の進捗状況を把握するために、各種事業の実施結果について、表1のとおり評価しています。なお、数値目標を設けている事業につきましては、事務事業総点検表の評価基準と同様、「S」から「C」までの4段階による評価を実施し、数値目標を設けていない事業につきましては、「※」として区分しています。

事業評価	成果目標に対する達成状況等
S	成果目標を上回る事業（105%以上）
A	おおむね成果目標を達成した事業（90%以上105%未満）
B	成果目標を下回る事業（70%以上90%未満）
C	成果目標を顕著に下回る事業（70%未満）
※	数値目標を設けていない事業

表1 成果目標に対する各種事業の達成状況等

(1) 8つの重点項目の実施状況

重点項目においては、8項目のうち、重点項目1の「緑地率の緩和」について、「静岡市工場立地法第4条の2第2項の規定に基づく準則を定める条例」を平成27年11月に制定、平成28年4月1日に施行し、すでに目標を達成していることから、今年度は評価の対象外としております。

数値目標を設けている3つの重点項目については、表2のとおり、すべて成果目標以上の実施状況にあることから、各重点項目において、順調な事業展開のもとで推移していたと捉えております。

その中でも、重点項目4の「中小製造事業者等を取り巻く規制事項の洗い出しと緩和の検討」では、平成28年度より、本市の優れた生産技術を有する中小製造事業者を称え、表彰する「中小事業者技術表彰事業」を創設しました。これは、市内の中小製造事業者のモチベーション向上や、優れた生産技術を有する事業者の存在及びその取り組みを広く市民に周知する目的で創設したもので、平成28年度は6社を表彰し、広報や周知に努めました。

また、重点項目8の「ものづくり関連の民間活動団体への支援」では、日立清水理科クラブ（※）が企画、開催した「静岡市長杯水ロケット大会」に対し、広報や会場（IAIスタジアム）の借用、市長杯の授与等において具体的な支援を実施しました。

※市内に所在する大手製造企業OB技術者を中心に組織された団体で、科学技術の理解促進に向けて、小学生を対象に多様な工作教室を開催しています。

目標、方針、施策、事業	各事業の成果目標	平成28年度実施状況	事業評価
(計画目標) 多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡			
(8つの重点項目) 中小製造事業者への重点的取組			
◆ (重点項目①) 緑地率の緩和	工場立地法に基づく準則条例の制定 (緑地率の緩和条例の制定)	なし 「静岡市工場立地法第4条の2第2項の規定に基づく準則を定める条例」をH27年11月に制定、H28年4月1日に施行済み	
◆ (重点項目②) 大手製造企業の傘下企業に対する支援の検討	企業OB技術者等の現状把握及び活用方策の整理	■ 中小製造事業者に対するヒアリング調査を実施 ■ 市内企業と人材の交流会及び首都圏在住の人材掘り起こし等のためのセミナーを開催	※
◆ (重点項目③) 中小製造事業者等を取り巻く規制事項の洗い出しと緩和の検討	市内製造事業者が課題とする規制事項及び緩和要望等の把握並びに緩和実現に係る方針の検討	経済団体との懇談等を通じた規制事項のヒアリング等の実施	※
◆ (重点項目④) 本市の誇るべき中小製造事業者等の表彰	① 静岡県知事表彰及び静岡市功労者表彰への推薦 3者表彰 ② 中小製造事業者の技術表彰制度 表彰社数 5社表彰	① 表彰者数 4者 ② 表彰社数 6社	S
◆ (重点項目⑤) 産業振興プラットフォームの考えに基づく中小製造事業者支援	プロジェクト支援数 3社	プロジェクト支援数 10社	S
(重点項目⑥) 国や県等の補助制度の情報提供と活用モデルの提案	国や県等の補助制度に関する情報の整理及び製造事業者への適時適切な情報提供	国や県、その他産業支援機関等のガイドブック、ホームページ等により、情報収集を行った	※
◆ (重点項目⑦) 展示販売会等の開催による販路拡大に向けた支援	展示会等の誘致件数 1件	展示会等の誘致件数 1件	A
◆ (重点項目⑧) ものづくり関連の民間活動団体への支援	広報等による支援の実施	■ 日立清水理科クラブの会報を配架し、活動の周知を実施した。 ■ 「静岡市長杯 水ロケット大会」への支援を実施した。	※

表2 事業実績に基づく8つの重点項目の実施状況等

(2) 方針毎の実施状況

①方針1 企業の誘致と留置の推進

方針1は、表3のとおり、登載事業は事業1のみではありますが、成果目標を大きく上回る

結果となったことから、方針の進捗状況に関しても、順調に推移していたと捉えております。

年間を通して積極的な企業訪問に取り組み、企業ニーズの把握に努めるとともに、企業立地を促す助成制度に関する情報を提供し、ニーズに対するマッチングを図ったことで、新規企業立地の年間目標件数を大きく上回る 43 件の立地に成功しました。今後は工場立地の大規模投資案件の増加に向けて、業務の適正化及び効率化とともに、企業ニーズへのさらなる適応を図るため、補助制度及び交付事務手続きの見直しを行ってまいります。

目標、方針、施策、事業	各事業の成果目標	平成28年度実施状況	事業評価
(計画目標) 多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡			
(方針1) 企業の誘致と留置の推進			
(事業1) 企業立地の推進	新規企業立地件数 17件/年 ※(静岡市地域基本計画) 平成25～29年度 85件/5年	新規企業立地件数 43件	S

表3 事業実績に基づく方針1の実施状況等

②方針2 新市場・販路開拓に対する支援(異業種交流支援を含む)

方針2については、表4のとおり、数値目標を設定している8事業のうち、7事業において、成果目標以上の実施状況にあることから、方針の実施状況に関して、順調に事業を展開できたと捉えております。

その中でも、事業3-2の「ホビーのまち静岡推進事業」については、「ホビーのまち静岡」及び「静岡ホビーショー」等のPRのため、首都圏の商業施設におけるイベントを2回開催し、計4日間で約20,000人の来場客にPRを実施しました。

さらに、小田急電鉄の全車両及び全駅へのポスター掲載や、動画共有サービス「YouTube」等に「ホビーのまち静岡」プロモーション動画配信を実施し、本市のホビー関連産業を広くPRできたと考えております。今後は、各プロモーション事業の効果を検証し、次年度以降の施策に反映してまいります。

次に、事業5-1の「伝統工芸品等の展示販売会の充実化」では、ドイツのフランクフルトで開催される世界最大規模のインテリア・家庭用品関連見本市(アンビエンテ)において、静岡挽物の新規開発商品及び既存商品の展示を行い、海外バイヤー等の反応を調査しました。その際、多数の海外バイヤーからの見積もり依頼や挽物技術に関する問い合わせがあり、日本の挽物技術に対する海外での需要を確認することができました。また、ヨーロッパ内でセレクトショップを経営する日本人バイヤーも多数来場し、それらの方にも静岡挽物を効果的に訴求できたと考えております。

ただ、海外の場合、展示会出展から、契約まで結びつけるためには、単年度で成果を上げることが難しく、一般的には最低でも4年程度の継続出展が必要とされていることから、今後も海外及び国内バイヤーへ静岡挽物の魅力を印象付けるため、継続して出展してきたいと考えております。

以上のように、方針2については、前述のとおり数値目標を設定している8事業のうち、7事業において、成果目標以上の実施状況であったものの、事業4の「中小企業の新規市場開拓・新分野進出への支援」については、C評価となりました。

この項目においては、成果目標が「おおた研究・開発フェア及びおおた工業フェアの出展企業数2社」であるところ、2月に開催される「おおた工業フェア」への出展を希望する企業がなかったため、年間の出展企業数が1社に留まったことが要因であります。

今後は当該展示会に限定せず、市内中小製造事業者が持つ高い技術力を効果的にPRできるような展示会等について広く情報を集めるとともに、実際の出展についても企業のニーズに基づいて検討していきます。

目標、方針、施策、事業	各事業の成果目標	平成28年度実施状況	事業評価
(目標) 多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡			
(方針2) 新市場・販路開拓に対する支援(異業種交流支援を含む)			
(事業2) 全国規模等の見本市への出展助成	全国規模展示会等への出展・開催件数 55件	補助金利用企業数 53件	A
(事業3) 首都圏におけるプロモーションの強化			
(事業3-1) 特産品東京展示会事業	会場売上金額 500万円	期間中の売上額 613万円	S
(事業3-2) ホビーのまち静岡推進事業	関連施設・イベント入込客数 219,000人	来場者数 257,807人	S
(事業3-3) しずおか葵プレミアム認証事業	展示即売会 11回	展示即売会数 13回	S
(事業4) 中小企業の新規市場開拓・新分野進出への支援	おおた研究・開発フェア及びおおた工業フェアの出展企業数 2社	出展企業数 1社	C
(事業5) 地場産品の販路開拓と販売促進			
◆ (事業5-1) 伝統工芸品等の展示販売会の充実化	各展示販売会来場者数 270,000人	各展示販売会来場者数 274,423人	A
◆ (事業5-2) 海外における地場産品の販路開拓	開発と販路等の検討	ドイツの世界最大規模の国際消費財見本市(アンビエンテ)における静岡市の工芸品(静岡挽物)の開発品及び既存商品の展示を実施	※
◆ (事業5-3) インターネットの活用による地場産品の販売促進	駿府楽市Webページ改修	なし (※H27年度に改修済み)	
◆ (事業5-4) 問屋の機能の再興に向けた検討	業界及び駿府楽市との検討会実施回数 27回	業界及び駿府楽市との検討会実施回数 27回	A
◆ (事業5-5) 地場産品販売拠点の充実化	駅駿府楽市来場者数 41.5万人	年間来場者数 41万人	A

表4 事業実績に基づく方針2の実施状況等

③方針3 新製品・技術開発等に対する支援

方針3については、表5のとおり、8事業のうち7事業において数値目標を設定しており、そのすべての事業において成果目標以上の実施状況にあることから、方針の実施状況に関して、順調な事業展開が図られたと捉えております。

事業9-1の「商品企画・開発支援プロジェクト事業」では、産学交流センターにおいて、マーケティング等の専門家を活用し、地域資源を活かしたお土産づくりを支援する「静岡おみやプロジェクト」を実施しています。平成28年度は、成果目標どおりの「商品化件数6件」を達成し、参加事業者すべてが新たな「静岡みやげ」を開発することに成功しました。

一方、事業を進める中では、参加事業者の商品化に対する意欲にバラつきが発生し、商品化までのフォローに苦労を要したため、今後は、参加事業者へのよりきめ細かな支援方法を検討していきます。

また、事業12の「職人に対する商品開発手法等の教育」については、商品開発や指導会等に専門家を招へいし、職人に対してデザインやマーケティング等の手法を学ぶ場を提供しました。平成28年度は、首都圏の美術大学（武蔵野美術大学）へ講師の派遣を依頼し、若手職人等を対象にトーク形式による指導会を実施しました。

今後は、商品開発指導からさらにステップアップし、具体的にマーケティングの手法を用いた販路開拓等を学ぶ場を提供していきたいと考えております。

その他の事業においても、すべて成果目標以上の実施状況であったことから、「新製品・技術開発等に対する支援」という方針に沿って、事業の進捗が図られたと捉えております。

目標、方針、施策、事業	各事業の成果目標	平成28年度実施状況	事業評価
(目標) 多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡			
(方針3) 新製品・技術開発等に対する支援			
(事業6) 新産業開発振興機構の活用に関する検討	新産業開発振興機構との連携促進に向けた検討	■静岡商工会議所機構事務局と連携し、大学及び業界団体のマッチング可能性を調査 ■地場産業企業との協議を実施	※
(事業7) 中小企業技術開発支援事業	研究会、セミナー等参加者への支援件数 1件	支援件数 1件	A
(事業8) 若手グループの商品開発支援(ものづくり相談・支援)	講演会、指導会等の開催回数 3回	講演会、指導会等開催回数 11回	S

目標、方針、施策、事業	各事業の成果目標	平成28年度実施状況	事業評価
(事業9) 専門家の指導による商品企画・開発支援			
(事業9-1) 商品企画・開発支援プロジェクト事業	商品化件数 6件	商品化件数 6件	A
(事業9-2) 新商品・特許事業	新商品開発及び産業財産権出願等の件数 25件	新商品開発及び産業財産権出願等の件数 27件	S
(事業10) アーティストとのコラボレーション支援推進(ニューウェーブしずおか創造事業)	開発点数 20点	開発点数 41点	S
(事業11) 地域課題に係る産学共同研究への支援	産学共同研究数 6件	産学共同研究数 8件	S
◆(事業12) 職人に対する商品開発手法等の教育	職人向け指導会等開催回数 1回	職人向け指導会等開催回数 1回	A

表5 事業実績に基づく方針3の実施状況等

④方針4 中小企業の経営基盤・競争力の強化

方針4に掲げる事業については、表6のとおり、10事業のうち、数値目標が設けられているものは2事業ですが、どちらも成果目標以上の実施状況でありました。

数値目標を掲げる事業のうち、事業14の「企業OB技術者等の活用事業」については、市内及び首都圏における新現役人材等が持つ豊富な知識や経験を市内中小事業者の課題解決や新規事業等に活用することを目指し、平成28年度から新たに「人材マッチング推進事業」を創設しました。当事業では、ポリテクセンター静岡における市内の中小製造事業者と当該人材との交流会を開催したほか、首都圏在住の人材掘り起し等に向けたセミナーを開催するなど、現在喫緊の課題である人手不足解消に関する取り組みを実施しました。

今後は、交流会等の開催に加えて、中小製造事業者が市内の製造業系の人材育成・養成機関との関係を作り、直接やり取りしていけるような仕組みづくりを推進していきたいと考えております。

次に、事業16-3の「ものづくり先進都市等に関する調査研究」については、先進都市としてパナソニックが本社を置いている大阪府門真市を選定し、視察・調査研究を行いました。

門真市は、製造業の従業員数の割合が本市の2倍以上あるなど、製造業を主たる産業とするまちで、同市のものづくり企業の連携・交流を図る取組みや、企業OB等からなる中小企業サポートセンターの活動を通じた生産性向上の取組みについて、調査研究を実施しました。

今後は、当調査研究の結果について、本市における施策への反映に向けて、検討を行っていきます。

これらのことから、数値目標を掲げる2事業については、いずれも成果目標を達成しており、「中小企業の経営基盤・競争力強化」に関する方針に沿って、順調な事業展開のもとで推移できたと捉えております。

また、数値目標を設けていない事業においても、静岡商工会議所と連携した事業推進や、地場産品に関する他都市・他産地の事例の調査研究のほか、県内の大学と連携し、本市のものづくり産業について雇用の観点から業種ごとのトレンドや将来予測についての考察を実施できたため、事業の進捗が図られたと捉えております。

目標、方針、施策、事業	各事業の成果目標	平成28年度実施状況	事業評価
(目標) 多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡			
(方針4) 中小企業の経営基盤・競争力の強化			
(事業13) 国、県等に関する補助制度等の 情報提供支援	国や県等の補助制度に関する 情報の整理及び製造事業者へ の適時適切な情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ■国や県、その他産業支援機 関等のガイドブック、ホーム ページ等により、情報収集を 行った ■本市補助制度等の地域金融 機関への説明会を実施 	※
(事業14) 企業OB技術者等の活用事業	企業OB技術者等の現状把握 及び活用方策の整理	<ul style="list-style-type: none"> ■中小製造事業者に対するヒ アリング調査を実施 ■市内企業と人材の交流会及 び首都圏在住の企業OB技術者 掘り起こし等のためのセミ ナーを開催 	※
(事業15) 製造業部会等との連携推進	製造業部会等との連携による 各支援制度のブラッシュアッ プ	静岡商工会議所からの行政要 望を通じた意見交換等の実 施、当要望に対する検討及び 回答を行った	※
(事業16) 中小企業の支援施策等に関する調査事業			
(事業16-1) 産業構造の将来動向等に関する 予測モデル構築の検討	将来動向に係る基礎データの 蓄積及び予測モデルの構築	本市のものづくり産業につい て、雇用の観点から業種毎の トレンドや将来予測について の考察を実施	※
(事業16-2) 地域間競争に臨む戦略的方策の 検討	地域間競争に打ち勝つための 戦略的方策の検討	第2次ものづくり産業振興基 本計画に搭載された全42事業 のうち、23事業において当初 の目標以上の進捗状況を達成 することができた。	※
(事業16-3) ものづくり先進都市等に関する 調査研究	先進視察都市数 1件	調査都市数 1都市(門真 市)	A
◆(事業16-4) エネルギー需要状況等に関する 調査研究	現在のエネルギー需要の把握 及び今後のエネルギー確保に 向けた方策の整理	<ul style="list-style-type: none"> ■冷熱利用についてのヒアリ ング調査を実施 ■市内企業の自家発電の現状 把握方法の検討 	※

目標、方針、施策、事業	各事業の成果目標	平成28年度実施状況	事業評価
(事業17) 地場産品に関する調査事業			
◆ (事業17-1) 地場産品の市場及び商品分析等に関する調査	首都圏等における調査実施回数 2回	首都圏等における調査実施回数 3回	S
◆ (事業17-2) 伝統工芸品に関する代替素材の調査研究	他都市、他産地の事例を調査研究	■漆器、下駄、竹分野等分野における原材料の実態の調査及び業界団体と意見交換を実施。 ■竹素材の素材研究の実施	※
◆ (事業17-3) 職人及び業界への支援の在り方に関する調査研究	他都市、他産地の事例を調査研究	他産地の調査研究の実施	※

表6 事業実績に基づく方針4の実施状況等

⑤方針5 次代を担う多様な人材の育成

方針5では、表7のとおり、数値目標を設定している4事業について、そのすべての事業において成果目標以上の実施状況にあることから、方針の進捗状況に関して、順調に事業展開できたものと捉えております。

事業19-2の「職人育成事業(クラフトマンサポート事業)」では、地場産業界の後継者の確保及び育成、新規就業者の支援を目的に、①3ヶ月の短期支援者、②2年の長期支援者、③独立支援者の3つの形態で支援を実施しました。平成28年度の実績として、②長期支援者数、③独立支援者数においては成果目標を上回る人数を支援することができたものの、①短期支援者数については目標を下回る支援者数となりました。当初は成果目標どおりの2名の受け入れを見込んでいましたが、支援者側の事情により実習を受けることができなくなり、1名の受け入れという実績となりました。

今後は、短期支援における新規受け入れの強化を行うとともに、長期支援において技術を習得した者が伝統工芸分野に定着できるよう、予算を拡充し、従前の独立支援に加え、雇用奨励金を創設していきます。

また、事業21の「ものづくり体験・学習機会の提供」では、駿府匠宿体験学習利用児童数について、概ね目標を達成することができました。

当事業については、対象となる市内の小学4年生の児童数が減少傾向にあり、利用者確保が難しくなっているという背景はありますが、竹組合が実施している体験事業の共同PRの実施や、申し込みのない小学校に対する追加のアプローチなど、今後も引き続き利用率向上に向けた施策を展開し、より多く子ども達に対し、ものづくりに対する関心や理解を深めるきっかけを提供していきたいと考えております。

こういったことから、方針5の進捗状況については、成果目標以上の実施状況であったため、ものづくり産業の人材育成という方針のもとで、事業の進捗が図られたと捉えております。

目標、方針、施策、事業	各事業の成果目標	平成28年度実施状況	事業評価
(目標) 多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡			
(方針5) 次代を担う多様な人材の育成			
(事業18) 理工系大学の誘致及び市内の既存大学における工学部新設の検討	設置学科等に関する地元産業界におけるニーズを把握する	地元製造業者に対する静岡大学工学部等のシーズ説明会の開催	※
(事業19) 職人の育成事業(市と伝統工芸業界の連携事業)			
(事業19-1) 若手後継者の技術習得支援(伝統工芸技術保存講習会の開催)	受講生 30人以上 (漆器、蒔絵、木工、竹工芸、拭漆の5部門に関する講座)	受講者数 39人	S
(事業19-2) 職人育成事業(クラフトマンサポート事業)	制度活用者数 短期支援2人、長期支援2人、独立支援1人 (各人数は延べ)	短期支援 1人 長期支援 4人 独立支援 2人	S
(事業19-3) 若手職人の大学進学支援の検討	他都市、他産地の事例を調査研究	■業界ニーズの確認 ■首都圏美術大学教授による指導会の実施	※
(事業20) 高校生のインターンシップ事業	実施生徒数 50人	実施生徒数 81人	S
(事業21) ものづくり体験・学習機会の提供	駿府匠宿体験学習利用児童数 3,600人	駿府匠宿体験学習利用児童数 3,275人	A

表7 事業実績に基づく方針5の実施状況等

(3) 基本計画実施状況の総括

基本計画の実施状況に関しては、計画目標を支える重要な方針レベルにおいて、表8及び表9のとおり、重点項目及び5つの方針で概ね進捗が図られているとともに、評価区分別に見ても、成果目標を上回る達成状況であったことを示すS(13事業)及び成果目標をおおむね達成したことを示すA(11事業)に該当する事業が、全体の58.5%を占める結果となっています。その中でも、成果目標を設けた事業だけを見た場合には、おおむね目標達成以上となる割合(S+A)が96.0%を占めていることから、基本計画全体としては、十分に進捗が図られていると捉えております。

方針	事業評価	該当事業数	方針における各事業評価の割合	数値目標有の事業数に対する「成果目標以上(S+A)」を達成した割合	方針別実施状況の評価(※)
重点項目 (7項目)	S	2	67%	100%	◎
	A	1	33%		
	B	0	—		
	C	0	—		
	※	4			
	小計	7	100%		
方針1 (1事業)	S	1	100%	100%	◎
	A	0	—		
	B	0	—		
	C	0	—		
	※	0			
	小計	1	100%		
方針2 (9事業)	S	3	38%	88%	○
	A	4	50%		
	B	0	—		
	C	1	12%		
	※	1			
	小計	9	100%		
方針3 (8事業)	S	4	57%	100%	◎
	A	3	43%		
	B	0	—		
	C	0	—		
	※	1			
	小計	8	100%		
方針4 (10事業)	S	1	50%	100%	◎
	A	1	50%		
	B	0	—		
	C	0	—		
	※	8			
	小計	10	100%		
方針5 (6事業)	S	3	75%	100%	◎
	A	1	25%		
	B	0	—		
	C	0	—		
	※	2			
	小計	6	100%		
※ 方針別実施状況の評価	S+Aの割合が ■90%以上100%以下 : ◎ ■70%以上90%未満 : ○ ■50%以上70%未満 : △ ■50%未満 : ×				

表8 方針別実施状況の評価

(報告書添付資料)

■各事業の成果目標及び

事業実績一覧表 (P16~19)

■各事業進捗管理票 (P20~57)